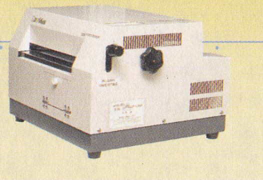
西日本新聞エリアセンター（販売店）は、
地元紙として地域活動を通して

人にやさしい

町づくりに取り組んでまいります。

Campaign News.1



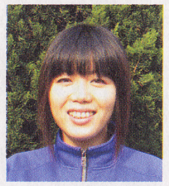
創刊130周年記念

視覚に障害のある方にも活字文化を

「点字プリンターを贈ろう」キャンペーン

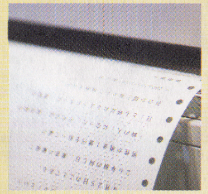
西日本新聞エリアセンター（販売店）では、創刊130周年事業として「点字プリンターを贈ろう」キャンペーンを行っています。「視覚に障害のある方にも 活字文化を」をスローガンに、点字プリンターを地域の施設に寄贈することで、より多くの方に活字文化に触れていただきたいと願っています。

2月8日 「盲養護老人ホーム 松月園」様へ贈呈します。



盲養護老人ホーム　松月園
副園長　**田代 由美**さん

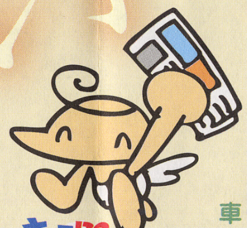
松月園は65歳以上の視覚障害者、約50名が自立をしながら一緒に楽しく暮らしている園です。点字プリンターがあれば、今までのように一文字ずつ手打ちせずにすむのでとても助かります。敬老会などの行事のお知らせも簡単にできるし、年3回発行している会報「松風」の点訳も行っていきたいですね。当園ではカラオケや謡曲、茶道、陶芸などクラブ活動も盛んです。たとえばカラオケで新しい歌にチャレンジするときなども、歌詞を点訳してみなさんに配ることができると思います。いろいろと役立てられそうで期待しています。



点字プリンターとは

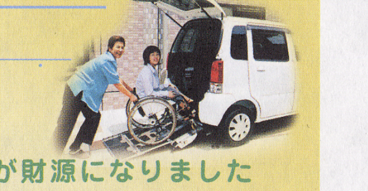
点字プリンターとは、パソコンで点訳した文字を、点字に印刷するプリンターのこと。一文字ずつ手で打つのに比べて早く仕上がります。今年春までに九州全域で13台を寄贈する予定です。

これまで寄贈させていただいた方々	
	大野城市「あゆみの会」 熊本市熊盲点訳サークル“さくら”「熊本教科書点訳会」 飯塚市ボランティアサークル「キャンドル」



創刊130周年

Campaign News.2

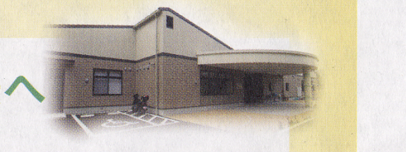


みなさまの一部一部の購読が財源になりました

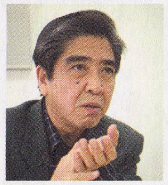
「車いす送迎車を贈ろう」キャンペーン

西日本新聞エリアセンター（販売店）では、創刊125周年から「車いす送迎車を贈ろう」キャンペーンを行っています。今回は2月26日に福岡市南区老司の「社会福祉法人　PAL（パル）」様へ贈呈します。西日本新聞エリアセンター都市圏グループ全体で21台目の寄贈となります。

2月26日 「社会福祉法人 PAL（パル）」様へ贈呈します。

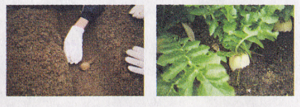


平成15年4月に無認可の作業所として開設。平成17年12月に法人となり、平成18年9月に正式オープンした。まわりはタヌキやキジもいる自然豊かな場所だ。



知的障害者
通所授産施設
PAL（パル）
理事長
中牟田 英生さん

PALは支援を必要としている人たちの社会自立をサポートする授産施設です。利用者は南区を中心に、遠方からもこの施設に通ってきます。車いす利用者は3人いますが、今までは大型ワゴンだったため、女性支援員が運転しづらく、男性支援員に大きく負担がかかるということもありました。また万が一、緊急時でも小回りがきくので役に立ってくれると思います。



午前中はおもに畑で作業をする。大根やじゃがいもなどの季節の野菜を種からていねいに育てる。足腰が弱い人は椅子などに座って苗作りに精を出す。

車いす送迎車とは

車いす送迎車とは福祉車両のことです。贈呈する車は軽自動車で、後部座席のスロープを使って車いすのまま乗り降りができるのが特徴。利用者も支援する側 も負担が軽くすみます。

これまで寄贈させていただいた方々

福岡市東区「めだか共同作業所」
福岡市西区「太陽・M共同作業所」
福岡市早良区「第二ひかり共同作業所」
（社福）甘木市社会福祉協議会
前原市「遊点共同作業所」
福岡市早良区「福祉作業所 そら」
志免町「社会福祉協議会」
福岡市南区「かしはらホーム」
新宮町「社会福祉法人 新宮偕同園」
福岡市博多区「こもんはうす」
太宰府市社会福祉協議会
（社福）春日市社会福祉協議会
宗像市「さつき会玄海はまゆう学園」
福岡市博多区「アート園」
福岡市東区「福岡ジョブサポート」
福岡市城南区「地域共同作業所 クロス」
小郡市社会福祉協議会
（社福）大野城市社会福祉協議会
福岡市西区「通所介護施設・たんぽぽの家」
東峰村「特別養護老人ホーム 宝珠の郷」

わたしたち西日本新聞の思い

西日本新聞エリアグループ
都市圏中央
会長　**新田 快夫**

このキャンペーンではこれまで20台の車いす送迎車を寄贈して参りました。お贈りした先々でご活用いただいていると聞き、大変うれしく思っております。送迎車を寄贈できるのは、皆様の一部一部の購読があってこそです。心から感謝をいたします。この気持ちを忘れずにこれからも地域社会に貢献できるよう、努めて参りたいと思います。今後とも西日本新聞への応援をよろしくお願いいたします。

西日本新聞